

第1学年 道徳学習指導案

指導者 千葉市立さつきが丘中学校 榎本 小有希

1. 主題名 人とのつながり

資料名 「私の体験した東日本大震災 ～3. 11あの瞬間（とき）を忘れない～」DVD資料
(内容項目 2－(6)感謝)

2. 主題設定の理由

(1) 主題について

本主題は、内容項目2－(6)「多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる」ことがねらいである。

昨年、3月11日に起きた東日本大震災では、数万人の死者を出し、現在も行方不明者がいる。千葉県でも、甚大な被害を受け、生徒たちも実際に地震の大きな揺れを体験している。しかし、被害がどれほどのものだったか、被災地がどのような状況になっているか、避難生活がどのようなものなのか、といったことは、テレビ等の映像で見ただけで、大変なことになっていることはわかるが、実際には他人事と捉えているところが大きいように感じられる。また、現在もなお復興に向け被災地では、多くの人がお互い協力し、励ましあいながら生活をしているが、ニュースで取り上げられる機会も減り、生徒たちの中では過去の出来事となりつつある。

この時期の生徒たちは、中学校生活に慣れ、部活動や生徒会活動では3年生が引退し、1年生も様々な場面で活躍するようになる。また、思春期、反抗期に入り、家族との関係がぎくしゃくしたり、友達との関係にも小学生の時とは、違った面が見え始める。自分をうまく表現できず、気持ちを素直に伝えられなかったり、逆に言いたいことをズバズバ言い過ぎたりして、友達付き合いに悩む生徒も出てくる。

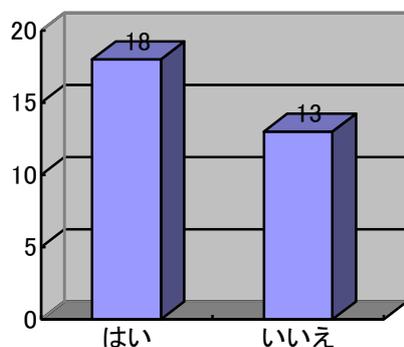
東日本大震災を扱うにあたり、当初、多くの犠牲者を出し、史上最悪の災害であるので内容項目を3－(1)「生命の尊重」で扱うことを考えた。しかし、この震災をきっかけに、日本全国で「絆」という言葉が叫ばれるようになったことや、「絆」以外にも「和」や「ボランティア」等、人と人とのつながりを意識させる言葉が連日メディアで取り上げられ、現在もその傾向が続いているのに、生徒たちに「絆」とはどういう意味なのか質問すると、正確に答えられる生徒はほとんどなく、本来の意味もわからず言葉が独り歩きしているように感じる。そこで、今回、内容項目を2－(6)に設定し、震災直後の被災地の様子、人々の状況を知り、なぜ「絆」や「和」「ボランティア」等の言葉が叫ばれるようになったか、これから成長し、大人になっていく過程で自分の心の中にある感謝の気持ちを素直に表現し、それが相手の心に届くことによってよりよい人間関係が築かれることに気づいてほしく本主題を設定した。

(2) 生徒の実態

本学級は、とても明るく元気な生徒が多く、行事にも積極的に参加している。「団結しよう」「協力しよう」という意識はあるものの、なかなかうまくいかないこともある。だが、人に対して優しい部分もあり、「ありがとう」という言葉もよく耳にする。

以下は、10月に行われた「合唱祭」後にとったアンケートの結果である。

1. 中学生になってから、一番感謝したことは、なんですか。
 - ・自分ができなかったことを、丁寧に教えてくれたこと。(7人)
 - ・困っていたら、助けてくれたこと。(6人)
 - ・自分のために何かしてくれたこと。(2人)
 - ・いけないことをしていたときに、それを止めてくれたこと。(2人)
 - ・合唱祭で伴奏者賞がとれたこと。
 - ・みんなのために声をかけたり、協力してくれたこと。
 - ・友達ができなかったとき、声をかけてくれたこと。(2人)
 - ・友達がいじめられているときに、慰めてくれたこと。
 - ・本気で怒ってくれたこと。
2. 中学生になってから、一番感謝されてことは、なんですか。
 - ・勉強を教えてあげたこと。(8人)
 - ・喧嘩をとめたこと。(3人)
 - ・リーダーになり、みんなをまとめたこと。
 - ・困っている人を助けたこと。(7人)
 - ・友達の相談にのってあげたこと。(5人)
 - ・物を拾ったこと。
 - ・特になし。(5人)
3. 素直に「ありがとう」と伝えられなかったことは、ありますか。
また、それは、なぜですか。



- ・伝える前に相手が、いなくなっていたから。
- ・恥ずかしかったから。
- ・照れ臭かったから。
- ・その時は、迷いがあった。
今なら、素直に伝えられるかも。

以上のことから、感謝の気持ちを持っている生徒ほとんどだが、自分が思っているほど相手に伝わっていない、または、うまく伝えられていないことが見られる。

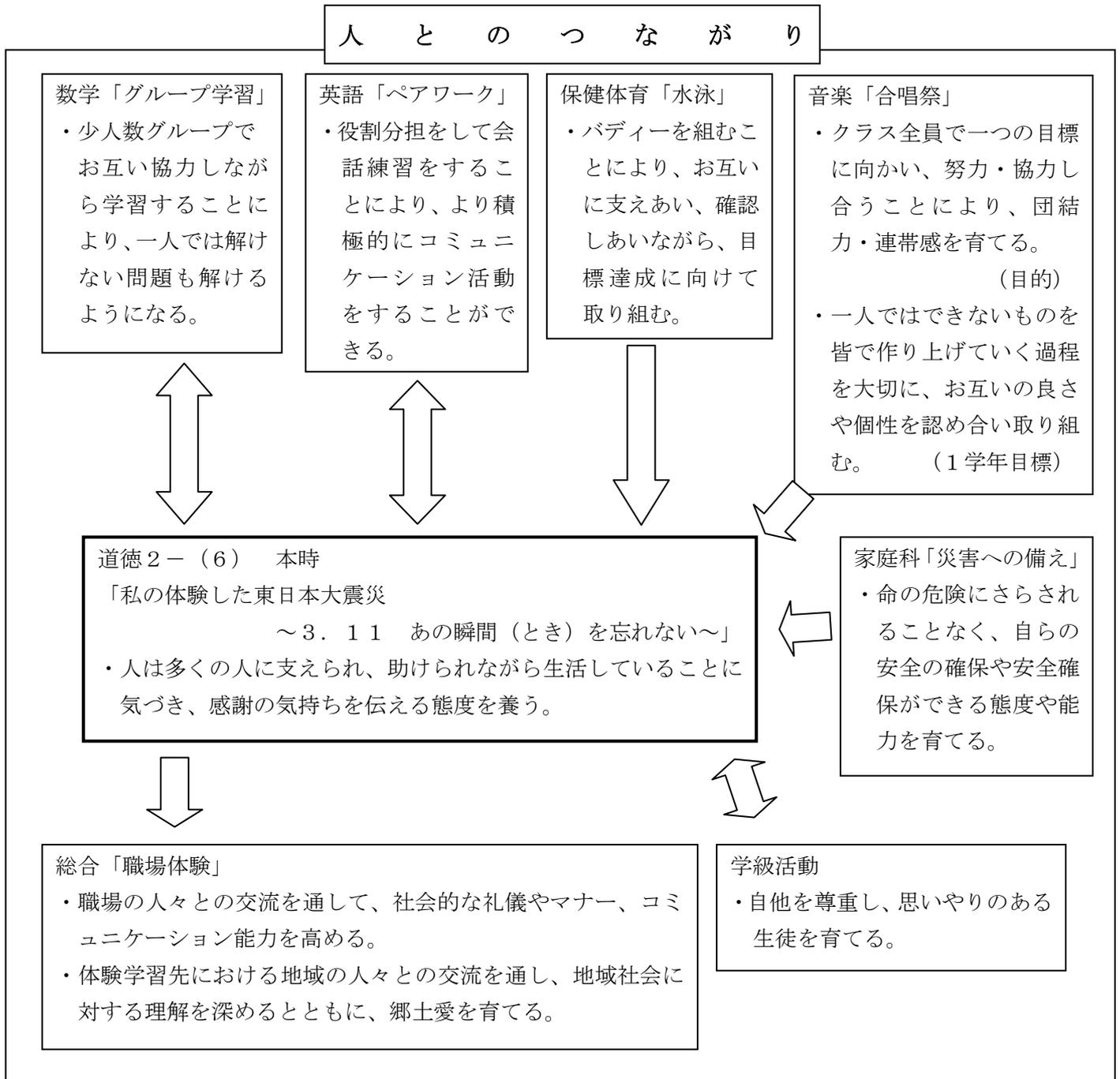
本授業を通して、感謝の気持ちを自分なりに表現し、伝えることの大切さを感じてほしい。

(3) 資料について

本 DVD 資料は、東日本大震災を人々に伝えようと南三陸町で語り部をしている三浦さき子さんの話を録画したものである。三浦さんは昭和35年のチリ津波と今回の震災の2回、津波の体験をしており、思い込みの怖さ、人とのつながりの大切さをつよく訴えている。今回、三浦さんの話を聞き、そこから被災地の状況、被災者の様子を通して、どのような状況でも人との関わりや

支えあいが必要ということを感じ、日頃から人に対する「感謝」の気持ちをもっているからこそ、こんな大変な状況でも周りの人たちに「感謝」の気持ちを持ち、伝えることができるということを感じてほしい。

3. 指導構想（他教科との関連）



4. 本時の指導

(1) ねらい

人は多くの人に支えられ助けられながら生活していることに気づき、感謝の気持ちを伝える態度を養う。

| | | | |
|-------|---|--|--|
| (10分) | <p>記入させる。</p> <p>○授業を振り返って、感じたことを書きましょう。</p> <p>10. 書いたことを発表させる。 (発表)</p> | <p>・いままで気付かなかったけど、いろいろな人に支えられていた。感謝の気持ちを大切にして、伝えていきたい。</p> | <p>◆感謝の気持ちを相手に伝えることの大切さに気づき、これからは伝えていこうとしているか。 (ワークシート・発表)</p> |
|-------|---|--|--|

「私が体験した東日本大震災」

1年 組 番 氏名： _____

三浦さん

南三陸町に生まれる。昭和35年にチリ津波と今回の東日本大震災の2回津波を経験し、津波に対する考え方、危ない思い込みが命取りになることを多くの人たちに伝えたく語り部になった。

避難先の県の宿泊施設では、職員がお年寄りの移動用に毛布で担架を作り、裏山まで迎えに来てくれた。食糧が全くなかったので、震災の翌日から男性が中心となり、畑などで何か食べられるものがないか、探しに行ってくれた。自衛隊から物資が届くようになったが量が少なく、1日何食食べられるかもわからなかった。できるだけふやかして量を多くする工夫をした。トイレの問題もあったが、男性が土を掘るなどして作ってくれた。みんなで協力して過ごした。たくさんの人たちに感謝している。

1.

.....

.....

.....

2.

支えてくれている人 _____

さん

.....

.....

.....

3.

伝えて・・・

伝えられて・・・

| | |
|-------|-------|
| | |
| | |
| | |

4.

.....

